

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

検鏡の結果、赤潮原因プランクトンであるメソディニウム・ルブラムが最大8細胞/mL確認されました。

また、柱状採水（0～10mの海水をひととめに採水）した海水では、シャットネラ属が小筑紫中央、青瀬山及びヒロウラにおいてそれぞれ0.01細胞/mL、大島中央において0.02細胞/mL確認されました。加えて、麻痺性貝毒原因プランクトンであるアレキサンドリウム属が小筑紫中央において0.15細胞/mL、ヒロウラにおいて0.03細胞/mL確認されました。

シャットネラ属は10～100細胞/mLになると魚類のへい死を引き起こす可能性があります。今後も飼育魚の状態や海色には注意をしてください。

アレキサンドリウム属は、主に二枚貝（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので十分注意してください。

今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡ください。

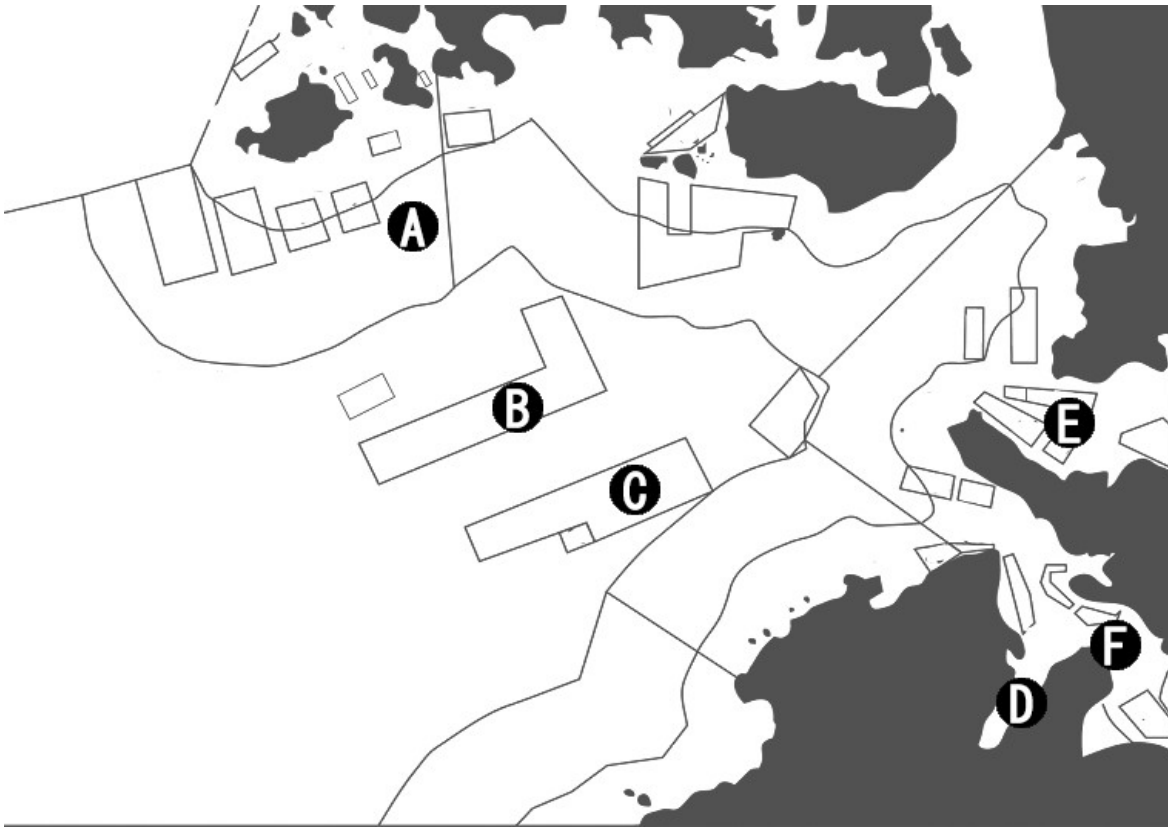
調査点 (透明度/水深) 【調査時刻】	海洋環境				プランクトン	
	深度	水温	塩分	溶存酸素	コクロディニウム・ ポリクリコイデス	メソディニウム・ ルブラム
	(m)	(°C)		(mg/L)		
A 藻津 (-/35.6m) 【09:03】	0	25.5	32.3	6.3	0	0
	5	25.6	33.4	6.1	0	0
	★ 10	25.4	33.5	6.2	0	0
	15	25.1	33.5	6.3	-	-
	20	25.0	33.5	6.1	-	-
B 大島中央 (-/32.3m) 【09:11】	0	25.4	31.5	6.2	0	0
	5	25.7	33.5	6.5	0	0
	★ 10	25.3	33.5	6.4	0	0
	15	25.1	33.5	6.4	-	-
	20	25.1	33.5	6.3	-	-
C 小筑紫中央 (-/48.5m) 【09:18】	0	25.6	32.8	6.2	0	0
	★ 5	25.7	33.5	6.6	0	0
	10	25.6	33.5	6.6	0	0
	11	25.4	33.5	6.6	0	0
	15	25.4	33.6	6.5	-	-
	20	25.3	33.5	6.4	-	-
D 栄喜奥 (-/13.7m) 【09:36】	0	26.4	32.1	6.0	0	0
	★ 5	25.6	33.5	5.4	0	7
	10	25.2	33.6	5.7	0	0
E ヒロウラ (-/25.6m) 【09:54】	0	25.6	30.4	5.8	0	0
	5	25.6	33.5	5.8	0	0
	9	25.5	33.5	5.8	0	0
	★ 10	25.4	33.5	5.7	0	0
	15	25.4	33.5	5.6	-	-
	20	25.3	33.5	5.5	-	-
F 青瀬山 (-/16.3m) 【09:43】	0	26.6	31.9	5.8	0	8
	★ 5	25.5	33.5	5.8	0	2
	10	25.3	33.6	5.7	0	0
	15	25.1	33.6	5.4	-	-

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。

★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの

プランクトンの細胞密度について、小数点第2位まで記載のあるものは、海水100mLを濃縮して検鏡しています。

こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL : <https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp>)においてもご覧いただけます。



- A: 藻津 D: 栄喜奥
 B: 大島中央 E: ヒロウラ
 C: 小筑紫中央 F: 青瀬山

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準 (※1)	警戒基準 (※2)	主な赤潮発生時期 ※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
<i>Karenia mikimotoi</i> (カレニア・ミキモトイ)	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5~8月	6~8月	—
<i>Chattonella</i> spp. (シャットネラ属)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6~8月	—	—
<i>Cochlodinium polykrikoides</i> (コクロディニウム・ポリクリコイデス)	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	—	2~4月	5~6月
<i>Heterosigma akashiwo</i> (ヘテロシグマ・アカシオ)	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3~12月	4~8月	4~11月
<i>Dictyocha</i> spp. (ディクチオカ属)	魚類等のへい死	—	5,000 cells/mL	6~7月	4月	—
<i>Takayama</i> spp. (タカヤマ属)	魚類等のへい死	—	10,000 cells/mL	8~9月	—	—
<i>Heterocapsa circularisquama</i> (ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ)	二枚貝のへい死	—	500 cells/mL	8~11月	—	—
<i>Alexandrium</i> spp. (アレキサンドリウム属)	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	—	1~4月	3~5月
<i>Gymnodinium catenatum</i> (ギムノディニウム・カテナータム)	二枚貝の毒化	—	1 cell/mL	—	—	2~7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度

※2 警戒基準：魚類及び二枚貝のへい死並びに二枚貝の毒化が想定される密度

※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。